

I 実践

1 研究主題

「一人一人が人権尊重の自覚をもち、認め合い、助け合う子どもの育成」

主題設定の理由

本校の教育目標は、「確かな学力をもち、たくましく生き抜く創造性豊かな実践人を育成する。」であり、目指す児童像は、「よく考え進んで学ぶ子」「明るく思いやりのある子」「心身ともにたくましい子」である。これらを受け、本校の人権教育の目標を「好ましい人間関係をつくり、誰に対しても優しく接することができる子どもの育成」「自分から進んで学習し、物事についての正しい見方・考え方を身につけた子どもの育成」「集団活動を通して、お互いに認め合い、助け合う子どもの育成」としている。本校の児童は、落ち着いた学校生活を送ることができるよう高学年の呼びかけや教師の共働、共遊、声かけなどを意識した指導が行われてきている。しかし、生徒指導部の学校生活調べの結果、全学年で毎月20名前後の児童が「今いじめられていますか。」の質問に「はい」と答えている課題があげられている。

そこで、いじめられていると感じている児童ゼロを目指し、児童一人一人が「会瀬あいいうえお」の決まりを守り、体験的な活動を通して友だちとの関わり方や身の周りの問題を自分で解決しようとする気持ちや態度を育てていくことができるよう本主題を設定した。

研究内容

- ア 人権を尊重する人間関係づくり
- イ 人権を尊重する学習活動の推進
- ウ 人権を尊重する環境づくり



2 実践内容

人権を尊重する人間関係づくり

ア 縦割り班活動による異学年交流

各クラスを12班に分けて縦割り班を作り、年間計画のもと、ほぼ毎月1回異学年集団で交流を図っている。活動場所でみんなが安全に楽しく遊べるように、真剣に和気相合と話し合っている。さらに砂遊び集会で、異学年交流の場を地域の行事にも広げたり、集会活動も行ってきた。異学年の集団で遊んだり、行事に参加したりすることで、下級生を思いやったり、上級生の姿を見て学び感謝の気持ちを育てる機会になった。

イ 高学年による「スマイルプロジェクト」

6年生が最高学年として、「明るく、楽しく、きれいな学校にしたい。みんながスマイルの学校にしたい。」という思いから生まれた。自分たちが進んで継続的にできる「あいさつ運動」からスタートし、さらに、「清掃」「なかよし」を加え、3つの実行委員を立ち上げ、話し合い、反省、改善しながら「会瀬スマイルプロジェクト」としての活動が本格的に始まった。内容は、庭の掃き掃除、廊下の正しい歩行の呼びかけ、交流給食、交流遊びなど6年生の思いがさまざまなところで発揮されていった。児童みんながスマイルでいられるよう、一生懸命学校のために働く姿は、他学年の児童にも感謝の気持ちが伝わり、優しさや気遣う心の育成にもつながった。

(2) 人権を尊重する学習活動の推進

ア いのちの教育 (2年生・4年生)

保健師さんをお招きして、保護者とともに生命の神秘やいのちの尊さについて学習した。学習後のアンケートの結果、命の大切さや親の願い、誕生した時の周囲の喜びなどを知り、自尊意識を高めるとともに自分以外のまわりの人も大切にしようとする心が育った。

イ 道徳の授業公開

学習公開日に各クラス1年間に1度は道徳の授業を公開している。また、今年度はこれを通して保護者に道徳教育の必要性を理解してもらうとともに人権教育の啓発にも努めた。

ウ ハッピースマイル大作戦

6年生の「スマイルプロジェクト」を受けて、もっと学校が楽しくなるようにいじめゼロを目指そうと、特活部を中心に「ハッピースマイル大作戦」という集会を実施した。各学級で「笑顔を増やすスローガン」を発表したり、児童一人一人が書いたメッセージ掲示したりした。さらに、全校児童が異学年の児童と触れ合ったり、歌を歌ったり、寸劇をしたりしながら、いじめについて考える機会をつくることができた。

(3) 人権が尊重される環境づくり

ア ハートいっぱいけやきの木

一階階段わきに、「ハートいっぱいけやきの木」を作り、さまざまな授業や学級の問題、行事などを通して、児童が感じ取った気持ちをミニメッセージとして書き掲示していった。その際、担任からも温かいコメントをもらい、けやきの木がどんどんハートいっぱいになっていった。また、校内にある花や木を使い、6年生を中心にみんなで人権リースを作った。特別教室の入り口に飾り、校内を明るくできた。



イ 「人権メッセージ」の取り組み

自分の良いところ発見や「ハッピースマイル大作戦」を通して、生活する中で必要な言動などについてメッセージを書いて掲示し、人権に対する意識を高めることができた。

3 成果

- (1) 学校生活全体を通して、上級生が自然と下級生に心くばりをし、下級生は上級生を手本とする態度が育ってきた。心のふれあいが学校に元気と温かい雰囲気を作り出している。
- (2) 教育活動全体を通して、自分以外の人も認め、尊重する態度が養われてきている。継続したり繰り返し学習したりすることで人権尊重の意識が深まっている。

II 今後の課題

教職員の人権意識の向上も不可欠であるので、校内研修などをさらに充実させ、継続的に人権感覚の涵養を図りたい。子供たちに芽生えてきた自他ともに大切にする気持ちをさらに育てていきたい。

III 人権コーナーの設置の様子



【ハートいっぱいけやきの木】

【いめゼロのスローガン】

【集会後の気持】